

科目名	国際政治学	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐々木 寛		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-210007	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	本講義の目的は、国家間関係がつくりだす「国際政治（inter-national politics）」の特徴を把握し、現代のさまざまな国際問題への多角的な視点を養うことにある。学としての国際政治学は、それ自体20世紀に誕生したが、その「論理」はヨーロッパ近代に歴史的に生成したものである。その「論理」をしっかりと理解することが、その「論理」が現代世界でどのように変容しているのかを把握する前提となる。講義では、古典的な著作を重視しながら、特に「政治的リアリズム」の理論を現代的な文脈で再検討したい。必要に応じて、学生同士でディスカッションを行う。				
学修到達目標	国際現象を理論的・批判的にとらえる能力を涵養する。また、歴史的に培われた「パワー・ポリティクス」の論理や「政治的リアリズム」のエッセンスの理解をめざす。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション―「国際」が意味するもの
第2回	戦争がつくりだした「政治的リアリズム」と古典外交の論理 ①
第3回	戦争がつくりだした「政治的リアリズム」と古典外交の論理 ②

第4回	20世紀の論理 ① — 2つの世界戦争
第5回	20世紀の論理 ② — 核兵器と政治
第6回	【映像資料で見る核戦略】
第7回	冷戦とはなんであったか ①
第8回	冷戦とはなんであったか ②
第9回	冷戦構造の崩壊と冷戦後の世界
第10回	【映像資料で見る冷戦後の世界】
第11回	パワー・ポリティクス（権力政治）の構造変容 ①
第12回	パワー・ポリティクス（権力政治）の構造変容 ②
第13回	「三つの世界像」と国際政治理論

第14回	「第四の世界像」と国際政治理論
第15回	まとめ—再び「国際」が意味するもの
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧
【復習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧

成績評価	
評価基準・方法	評価は基本的に定期試験による（100%）。ただ、毎回、授業中にコメントカードを書いてもらい、それによって受講者との対話を補強したい。また、その内容は、成績評価に若干加味される。また特に優秀な答案は、後進の参考とするために本人の了解を得て、公開する。
フィードバック方法	試験後に講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク
教科書/参考書	ポール・ハースト『戦争と権力』（岩波書店） E・H・カー『危機の20年』（岩波文庫） H・J・モーゲンソー『国際政治』（岩波文庫） など。
受講上の留意点等	出席はとらないが、対話を重視した、思考力を要求する授業であるので、出席しないと試験はとうていできないと思われる。 また、応用科目である「平和学」を受講する前に受講することが履修上、望ましい。
JABEE	